

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【公表番号】特表2010-510280(P2010-510280A)

【公表日】平成22年4月2日(2010.4.2)

【年通号数】公開・登録公報2010-013

【出願番号】特願2009-537603(P2009-537603)

【国際特許分類】

C 07 D 401/14 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 D 401/14

C 07 B 61/00 300

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月12日(2010.11.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

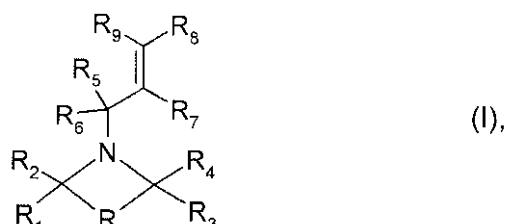
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式 I

【化1】



(式中、

結合基Rは、それが直接結合する炭素原子及び窒素原子と一緒にになって、置換された5-、6-、又は7員の環式環構造を形成し、

R₁、R₂、R₃及びR₄は、夫々互いに独立して、炭素原子数1乃至8のアルキル基又は炭素原子数1乃至5のヒドロキシアルキル基を表し、

又はR₁とR₂はそれらが結合する炭素原子と一緒にになって炭素原子数5乃至12のシクロアルキル基を表し、

又はR₃とR₄はそれらが結合する炭素原子と一緒にになって炭素原子数5乃至12のシクロアルキル基を表し、

R₅、R₆、R₇、R₈及びR₉は、夫々互いに独立して、水素原子、炭素原子数1乃至8のアルキル基、炭素原子数2乃至8のアルケニル基、非置換の又は炭素原子数1乃至4のアルキル基、炭素原子数1乃至4のアルコキシ基又はハロゲン原子で置換された炭素原子数5乃至12のアリール基；炭素原子数1乃至4のハロアルキル基、シアノ基、ニトロ基、ハロゲン原子又は-COOOR₁₀を表し；

そしてR₇とR₈は一緒にになって化学結合をも形成し得、

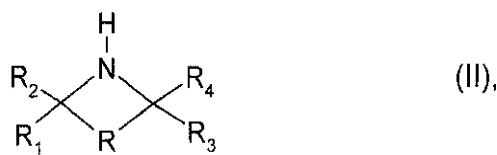
R₁₀は炭素原子数1乃至12のアルキル基、炭素原子数5乃至12のシクロアルキル基、炭素原子数7乃至9のフェニルアルキル基又はフェニル基を表す。)

で表される化合物の製造方法であって、

該方法は、

式 I I

【化 2】



(式中、R、R₁、R₂、R₃及びR₄は先に定義されたものを表す。)で表される化合物を、触媒の存在下で、式 I I I

【化 3】

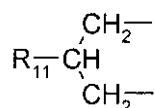


(式中、R₅、R₆、R₇、R₈及びR₉は先に定義されたものを表す。)で表される化合物と反応させることを含む、方法。

【請求項 2】

式中、Rが

【化 5】



を表し、

R₁、R₂、R₃及びR₄がメチル基を表し、

R₅、R₆、R₇、R₈及びR₉が水素原子を表し、

R₁₁がトリアジン環に結合する窒素原子を表す、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

式 I で表される化合物が、モノマーの、オリゴマーの、ポリマーの立体障害性アミン光安定剤の一部である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

式 I I I で表される化合物が、式 I I で表される立体障害性第二アミンの各ユニットに対して等モル乃至 100 倍超過で使用される、請求項 1 記載の方法。

【請求項 5】

触媒が金属触媒である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

金属触媒が、パラジウム、ロジウム、ルテニウム、オスミウム、銅、ニッケル、マンガン、鉄及びコバルト触媒からなる群から選択される、請求項 8 記載の方法。

【請求項 7】

触媒がパラジウム(テトラキストリフェニルホスフィン)である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 8】

触媒が、式 I I で表される立体障害性第二アミンの各ユニットに対して 0.01 乃至 30 モル% の量で使用される、請求項 1 記載の方法。

【請求項 9】

さらに溶媒が存在している、請求項 1 記載の方法。

【請求項 10】

さらに塩基が存在している、請求項 1 記載の方法。

【請求項 11】

さらに二酸化炭素又は別の不活性ガス又はそれらの混合物が存在している、請求項 1 記載の方法。